

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---------------|---------------|---------------|------------|
| (宛先) 京都府知事 | | 2023年 7月27日 | | | | | |
| 報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都府京都市下京区烏丸通り七条上る常葉町 真宗大谷派宗務所内 075-371-5521 | | 報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 学校法人真宗大谷学園 理事長 木越 渉 | | | | | |
| 主たる業種 | 高等教育機関 | 細分類番号 | 8 | 1 | 6 | 1 | |
| 事業者の区分 | 京都府地球温暖化対策条例施行規則 | <input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号 | | | | | |
| 計画期間 | 令和2年4月から令和5年3月まで | | | | | | |
| 基本方針 | 平成29年度から令和元年度の平均の排出量を基準に、令和3年度の温室効果ガス排出量を3%以上削減する。 | | | | | | |
| 計画を推進するための体制 | 大学、中・高等学校、幼稚園各現場の責任者である学長・校長・園長のもと地球温暖化対策ならびに省エネルギーを推し進めると共に、教職員・学生への啓蒙を行う。 | | | | | | |
| 温室効果ガスの排出の量 | 温室効果ガスの排出の量 | 基準年度 (29～1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 増減率 | |
| | 事業活動に伴う排出の量 | 2,818.0 トン | 2,841.1 トン | 3,159.7 トン | 3,168.3 トン | 8.5 パーセント | |
| | 評価の対象となる排出の量 | 2,935.0 トン | 2,841.1 トン | 3,159.7 トン | 3,168.3 トン | 4.1 パーセント | |
| | 実績に対する自己評価 | 大学においては、新型コロナウイルス感染症対策として、換気を実施しながらの空調運転となったため排出量が増加した。 中高においては、猛暑のため4月～9月の空調使用量が前年比で増加し、10月～3月は暖冬のため前年比で減少したが、年間を通じて増加となった。 | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 事業の用に供する建築物の用途 | 原単位の指標 | 基準年度 (1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 増減率 |
| | 学校 | 事業活動に伴う排出の量 (校舎等延床面積) | 2.73 | 2.64 | 2.97 | 2.98 | 4.89 パーセント |
| | | 事業活動に伴う排出の量 () | | | | | パーセント |
| | | 実績に対する自己評価 | 大学においては、新型コロナウイルス感染症対策として、換気を実施しながらの空調運転となったため排出量が増加した。 中高においては、猛暑のため4月～9月の空調使用量が前年比で増加し、10月～3月は暖冬のため前年比で減少したが、年間を通じて増加となった。 | | | | |
| 重点的に実施する取組の実施状況 | | 基準年度 (1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 備考 | |
| | | 93.0 パーセント | 87.0 パーセント | 87.0 パーセント | 87.0 パーセント | | |
| 具体的な取組及び措置の内容 | (2)年度 | 大学では、照明設備を更新する。適正なエネルギー管理に努める。 中高では、①随時LED照明への更新、②引き続きクールビズ、ウォームビズ、年2回の空調機フィルター清掃等の空調機器の効率化を行った。 | | | | | |
| | (3)年度 | 大学では、照明設備を更新する。空調設備を更新する。 中高では、①随時LED照明への更新、②年2回の空調機フィルター清掃等の空調機器の効率化を行った。 | | | | | |
| | (4)年度 | 大学では、照明設備を更新する。空調設備を更新する。 中高では、①随時LED照明への更新、②年2回の空調機フィルター清掃等の空調機器の効率化を行った。 | | | | | |
| 通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置 | 措置の内容 | 育児・介護・身体障がいなど特段の事情がない限り、教職員の自家用車通勤を認めていない。 | | | | | |
| | 上記の措置を実施した結果に対する自己評価 | 上記原則で年間運用ができています。 | | | | | |
| 森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量 | 区分 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 備考 | | |
| | 森林の保全及び整備によるもの | | | | | | |
| | 地域産木材の利用によるもの | | | | | | |
| | 再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの | | | | | | |
| | グリーン電力証書等の購入によるもの | | | | | | |
| | 温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの | | | | | | |
| 合計 | | 0.0 トン | 0.0 トン | 0.0 トン | | | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | 書類廃棄時の「焼却」から「溶解処分」への切替による廃棄物削減、リサイクル化によるCO2削減 溶解処分、リサイクル化による温室効果ガスの削減を行った。 | | | | | | |
| 特記事項 | 特になし | | | | | | |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。